

令和4年度 長野市連携中枢都市圏ビジョン懇談会 要旨

日 時 令和4年11月22日（火）15:00～16:30

場 所 長野市役所第一庁舎5階 庁議室

出席者 別紙名簿のとおり

資料1 長野地域連携中枢都市圏 進捗状況報告書 2021（令和3）年度

1 開会（下平企画政策部長）

2 あいさつ（西澤副市長）

3 懇談

(1) 長野地域スクラムビジョンの進捗状況について

○事務局

（資料1について説明）

○委員

基本目標の評価年度が項目によって違う。評価年度が違っていると評価に差が出る。

○事務局

項目ごとに統計のまとまる時期が違うため、最新のものを掲載している。

○委員

説明の中では、2020年度のコロナ禍との比較があったが、表に記載が無いので、掲載すると分かりやすい。

○委員

人口社会動態は、マイナスがプラスになれば良いのか。

○事務局

マイナスを小さくし、ゼロに近いところをしたい。

○委員

P88のSDGs認知度アンケートの母数は何か。

○事務局

市民アンケートとして無作為抽出6,000人で回収率は30～40%になる。

○西澤座長

P65移住・定住促進事業で相談が移住に結び付いた実績は分析しているか。

○事務局

長野市分としては、取りまとめている。

(2) 意見交換

○委員

P17ふるさと納税が達成しなかったのは、魅力が足りなかったのか。また、P64地産地消商談会はWEBでもできたのではないかと。SNSの活用も検討していただきたい。

○事務局

ふるさと納税は須坂市23億、長野市11億の実績があり、果物のリピート率が高い。今後、共通返礼品として果物をパッケージとした物なども検討したい。商談会は担当課に伝える。

○委員

スクラムビジョンは人口減少対策だと感じており、引き続き取り組みをお願いしたい。産業も就職するところがないと帰ってこない。また、再来年には北陸新幹線が敦賀に延伸するため、人の動きに影響がある。中央線に乗る人が減ると長野駅のハブ化が弱くなるため、関西圏からの人をどう呼び込むかが課題となる。

○委員

大学でも地域の要望を吸い上げ、できることを考えていく。

○委員

P 8 起業・新規事業創出事業は、銀行としても力を入れており協力したい。P 80 公共施設マネジメントだが、長野県はP F I 実績が少ない。銀行としても力を入れていくが、P F I の視点も入れて検討していただきたい。

○委員

人口減少をいかに抑えるかが連携の一番の目的だと考えている。2040年、476,000人以上としているが、現状はどうなのか。ビジョンの見直しはあるのか。また、基本目標、各事業の2025年度の目標値の見直し予定はあるのか。

○事務局

目標達成ができるよう新たな事業の追加も可能としている。目標値、K P I も必要に応じて見直しを行う場合もある。

○委員

P 39 青少年対策ですが、以前は長野市が主体となって行ってきた。行政の枠を外して一緒に取り組めると良い。P 30 保育の広域利用の拡大事業は、大変大切な事業で安心して子供を預けることができる。

○委員

善光寺御開帳には、どのくらいの方が訪れたのか。

また、須坂市にイオンモールができるが、長野市としてはどう考えているのか。

○事務局

3 か月間で636万人が来場された。特に1ヶ月延長した6月が好調であった。

イオンモールについては、圏域全体で考えると若者や子育て世代の域外流出の抑制など効果もあると考える。ただし、長野市中心市街地の活性化対策も必要となる。

○委員

小川村は人口減少が続いており、移住しても働く場がない。地域おこし協力隊も起業しているが、人口減少に歯止めがかからない。市まで車で40分、働く場所は長野市でも良いと考えており、移住、起業・新規事業は長野市と一緒に考えていきたい。

○委員

ワーケーションは定義が曖昧。モニターツアーを行う場合は、ターゲットを明確にし、圏域としての強みがどこにあるのかを考えたい。平成30年に長野県建築士会ながの支

部他の団体と長野市で震災時における避難所等の応急危険度判定の体制ができた。各町村になると協定が締結されていても組織体制構築が難しい。市町村の堺目なく災害は発生するので、広域での体制が取れると良い。

○事務局

危機管理防災課と相談する。

4 閉会

以上